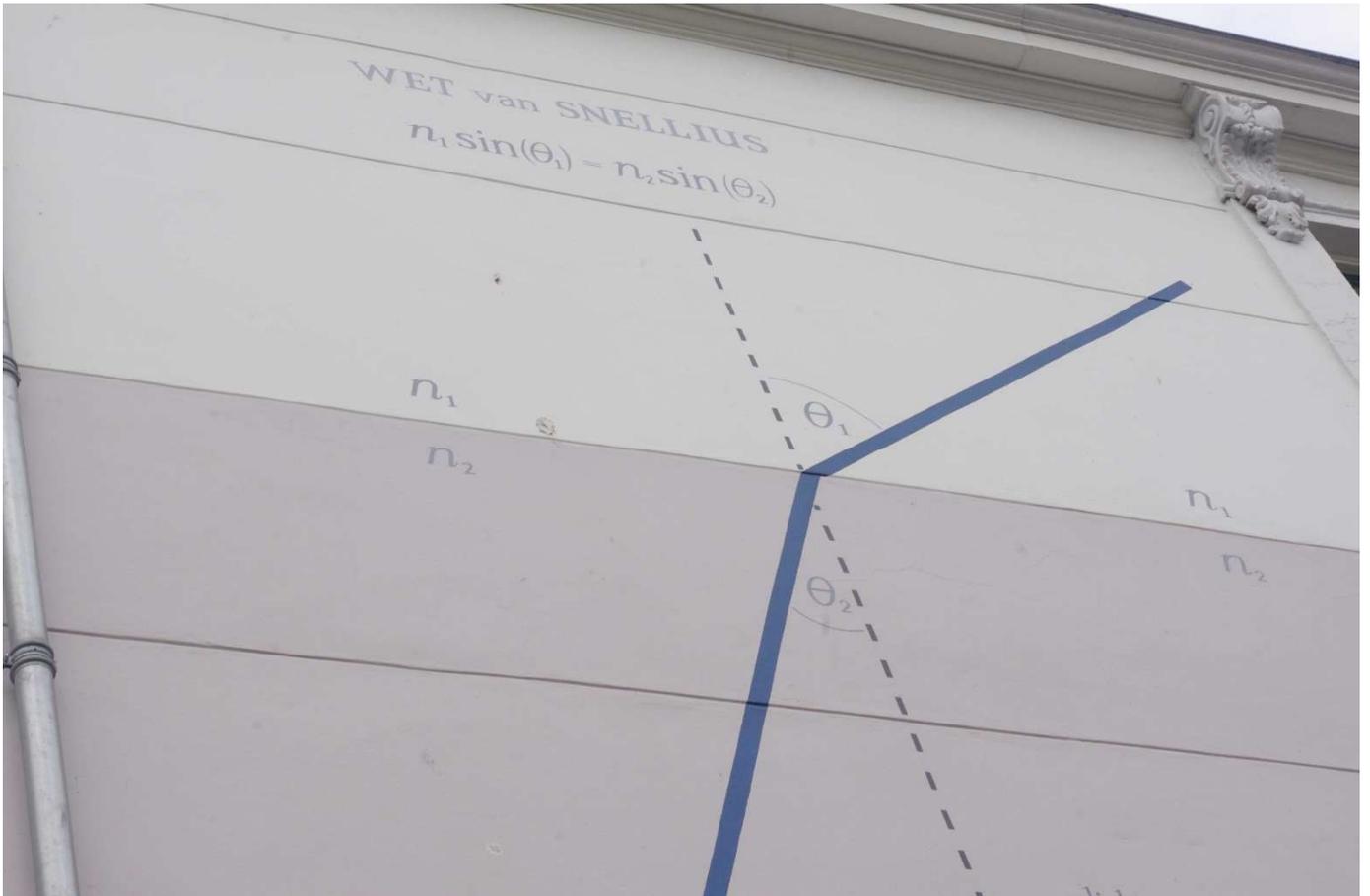


<スネル (1580-1626) >



民家 (ライデン市内) の壁にスネルの法則 :  $n_1 \cdot \sin(\theta_1) = n_2 \cdot \sin(\theta_2)$



スネルの墓

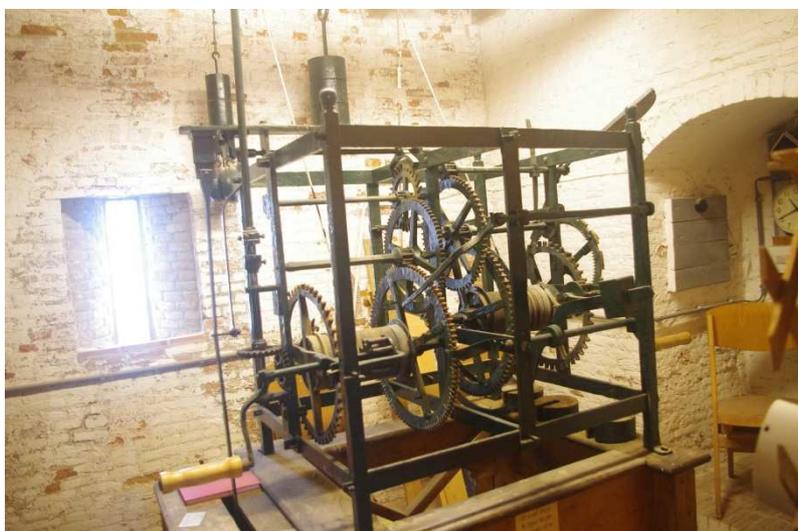


ライデン大学内の案内板 : スネルとホイヘンスの名が (建物名)  
(スネル、ホイヘンス共にライデン大学=オランダ最古の大学=出身)

<ホイヘンス(1629-1695)>



ホイヘンスの家



教会に設置された時計：ホイヘンスが初めて改良（実物）  
→それまでの時計に比べて精度が飛躍的に向上した



ホイヘンスの墓



ホイヘンスの肖像画（左）と彼の望遠鏡及び磨いたレンズ類（手前の丸い円盤状のもの）

<レーウエンフック(1632-1723)>

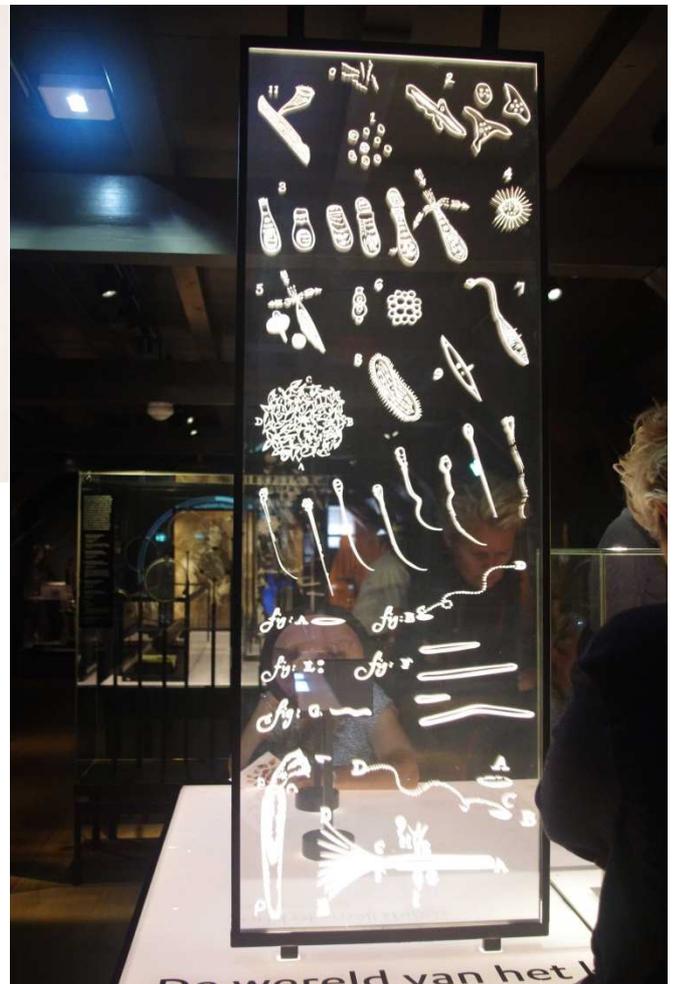


レーウエンフック展示の様子  
(肖像画と彼が描いた微生物のスケッチ)

レーウエンフック自作の顕微鏡  
(上下中央左よりの所に見える小さな穴にレンズがある)



レーウェンフック自作の顕微鏡用単レンズ（下）  
とレンズケース（上）



微生物のスケッチ（真ん中あたりに精子）



レーウェンフックの家の跡

<レーウェンフックの顕微鏡単レンズについて>

帰国後に、ブルハーフェ博物館から頂いた研究資料によると、単レンズの仕様以下の通りである。

- ・焦点距離：0.94～3.61mm
- ・NA（開口数）：0.11～0.37
- ・分解能：1.16～3.2  $\mu\text{m}$ （実分解能：1.35～4  $\mu\text{m}$ ）
- ・レンズ直径（球体として考える）：約 1.4～7mm



レーウェンフックの墓

<ブルハーフェ博物館（ライデン）>



壁にアインシュタインの理論が描かれている  
→上記ホイヘンス、レーウエンフックの資料が展示されている

<番外（ライデン）>



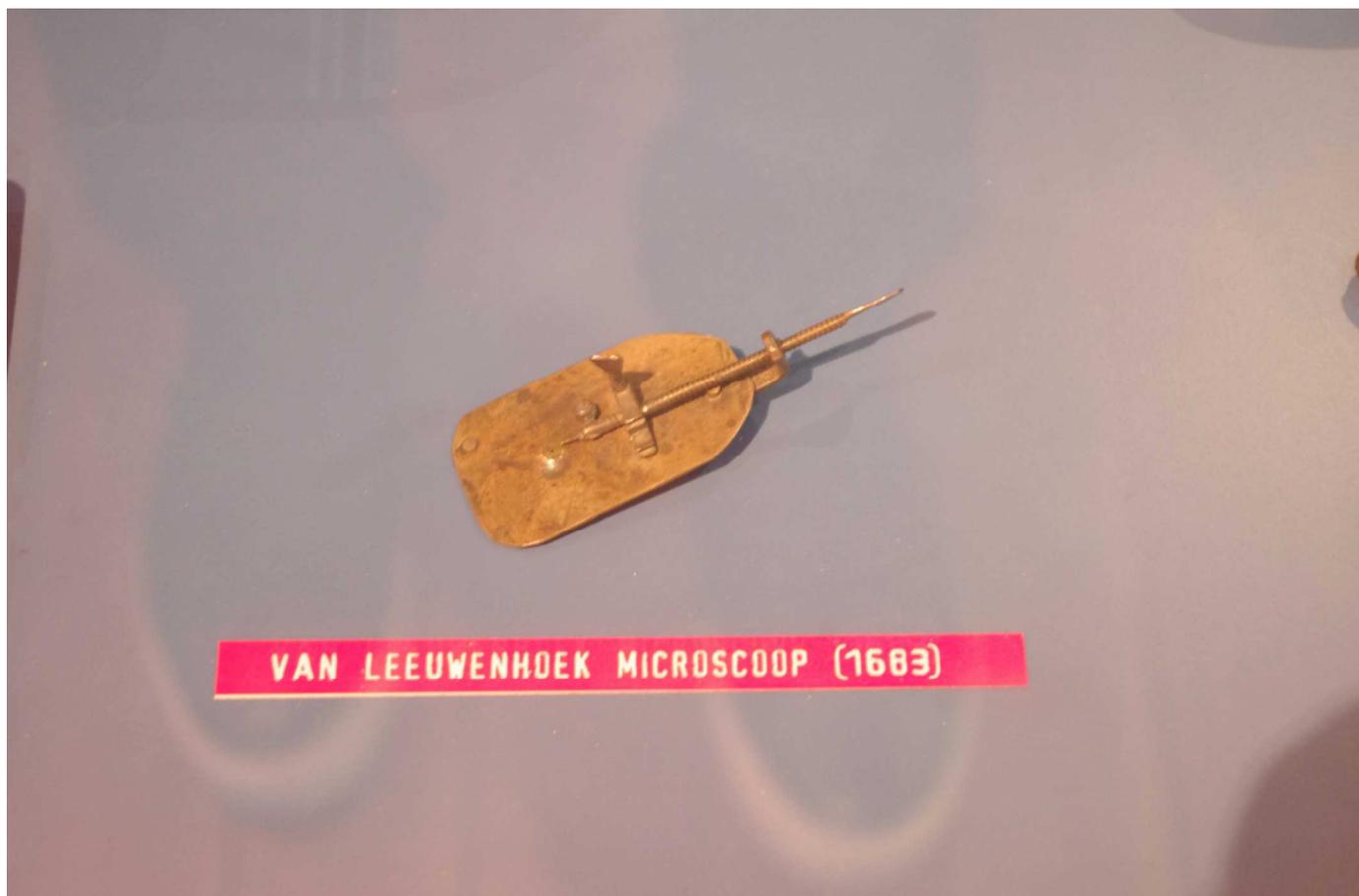
相対性理論に出てくる「ローレンツ収縮」  
（ライデン市内民家の壁）  
→ローレンツもライデン大学出身

因みに、ゼーマン効果（強い磁場をかけたときのスペクトル線の分裂）のゼーマンもライデン大学出身。



「アインシュタイン」という名のカフェ

<ユトレヒト大学博物館（ユトレヒト）>



レーウエンフックの顕微鏡（ユトレヒト大学博物館）



ユトレヒト大学博物館とそのカフェ